

「教えて喜田先生!」子育てに悩む パパ&ママを応援!



学校法人喜田学園 通信制課程

東林館高等学校

- ◎3年で高校卒業を目指すコース
- ◎受験対応個別指導コース
- ◎中学生コース・社会人コース

目的に合わせた幅広い学びを
提供しています

福山市光南町1-1-35
TEL.084-923-4543
FAX.084-926-9607



●福山駅南口から徒歩で約10分

東林館 福山

検索

●まずは夢を受け取ろう
お子様から、「将来医者になりたい」と語られたとき、「全然勉強してないのに、そんな無理よ!」と言っては、元も子もありません。その時点で子どもは夢はしぼんでしまいます。子どもが医者になりたいと言ったら、夢について考えたことを認め、受け取ることが

大切なことは、何の職業を選んだかではありません。仕事を知ったきっかけ、どんなイメージを持っているか、その仕事に携わる人はどんな人だと認識しているかが大切なのです。

●親は夢実現のパートナー
そのとき、自分とは違う価値観や考え方に、つい否定したくなる気持ちも理解できますが、子どもの夢を育てるためには、まずは親の思いは一旦横に置いて、子どもの想いを受け取ることに大切です。それができて初めて、親子の間で子どもの夢に関する深い話ができるようになります。子どもにとって親が、自分の夢を具体化するための大切なパートナーとなります。

Q小学生の我が子が全く勉強をしないのに、医者になりたいと言っています。どう思いますか?
A「質問ありがとうございます。お子様が、医者になりたいと言ったとき、どんな反応をされましたか?子どもが夢を語る時の親の反応こそ、子どもにとってとても大切です。私は、子どもがどんな職業を自分の「夢」として選んでも、全てOKだと思います。

大切。その上で「医者になりたいと思っただけか?」「あなたにとって医者とはどんな人?」と問いかけます。すると、さまざまな理由やきっかけ、思い・イメージを語る可能性があります。その中には、親の価値観や現実とは合わない考え方もあるでしょう。例えば「医者になったら楽しく稼げそう」とか「医者になったら偉そうに振る舞えそう」とか。それでもまずは、本人の思いを否定せず、「あなたは今どう思ってるんだね」と受け取ってあげてください。



喜田 紘平

東林館高等学校 理事長
実践心理学カウンセラー

学び・自立支援を通して
子どもの未来を創ります